

(5) 脱炭素社会に向けた若者の意見

人間がこれまで多量の温室効果ガスを排出してきた結果、私たちの暮らしは豊かで便利になりました。一方で、地球環境や社会には気候変動による様々な影響が出ており、このまま何の手立ても打たなければ、今後ますます地球温暖化問題は深刻化していくこととなります。

地球温暖化の進行で、その影響を最も受けるのは、若者です。

若者の声や意見等を聴きながら、脱炭素社会の実現に向けた施策を進めていくことが重要です。

そこで、本計画の策定にあたり、大阪で環境を学ぶ学生との意見交換会を令和4年5月に実施し、脱炭素社会の姿や本市行政に対する率直なご意見を聴きました。

本市からの質問と質問に対する学生のご意見は次のとおりです。

質問1 「ゼロカーボン おおさか」が実現した社会、どんな暮らしになっている又はしたいと思えますか？

- 町のいたるところにみどりがあることで、どこにいても自然が感じられ、都心でも空気がきれいになっている（→自然や都市が暮らしを彩る社会）
- 都心構造の多い大阪においても緑地公園が多数存在している
- 大阪の食料生産の一部を都市部の植物工場が担っている
- 動植物や、それらと共存する暮らしについて、より多くの人々が親しみを持っている
- 二酸化炭素を出さざるを得ないもの（昔の車やたき火など）が悪として扱われないような社会にしたい
- 脱炭素への取り組みをみんなが評価できる社会
- 行政が率先して脱炭素に向けた行動をする社会
- 意識せずに脱炭素を行える社会
- 自分の生きたいように生きることのできる社会
 - 日常で使っているものが地域で循環している
 - 地域住民との交流・つながり
 - 仕事、暮らしの選択の自由

質問2 誰でも参加できる地球温暖化対策、どんなプログラムであれば参加したいと思えますか？

- 地球温暖化対策の貢献度を数値化し、それに応じた特典の提供
- バザーやお祭りのような、みんなが楽しく得できるもの
- 木工教室など、体験型の催し
- 友だちなどと一緒に参加してみたいくなるようなプログラム
- いろんな人と交流できるようなプログラム
- 「ゼロカーボン おおさか」に向けた政策に関する公開シンポジウム
- ドイツやスウェーデンなどの環境先進国で、環境に配慮した政策について学べ、体験できる短期留学

- すでに興味のあるところから環境意識向上へ
プログラム1 エンターテインメント（遊園地,ライブ,商業施設）×脱ペットボトル
⇒廃棄物部門ゼロカーボンへ
- プログラム2 自然観察ゲーム in 植物園、水族館 ⇒生物多様性保全も

質問3 2050年の「ゼロカーボン おおさか」の実現を託す大人たちや大阪市（行政）に対してご意見やご要望をお願いします。

- 地球温暖化対策を意識せずとも当たり前に行えるような社会の実現。そのための制度実施など積極的な行動を起こしてほしい
- 二酸化炭素だけでなく、他の温室効果ガスに焦点を当ててほしい
- 2050年になったら、結果をちゃんと教えてほしい
- 取り組みにより期待される効果を数値で示してほしい
- 商品などの製造過程のエネルギー源が何なのか分かるようにしてほしい（電気自動車を石油を使って製造してもあまり意味がない）
- 若者が新たな創造や活動を意欲的にできるような支援
- 時代に応じた柔軟な普及活動（現代ではSNSなど）
- 気候変動対策を重点に据えた社会に移行してほしい
- 市民に対して、気候変動対策・脱炭素の重要性を発信し続ける
- 自然・気候を包括する富の指標を導入する
- 今まで取り残されてきた声を市政に反映してほしい
- 大阪関西万博に、より多くのステークホルダーを含める
- 気候市民会議を開催する



若者との意見交換会の様子

2022年6月に開催された国際環境会議「ストックホルム+50」では、「地球環境の世代間衡平」がクローズアップされ、将来世代も含むあらゆるステークホルダーの参画による行動を起こす必要性などが提言されました。

本市においても、「ゼロカーボン おおさか」の実現に向けて、全ての主体が主役になり、脱炭素に総合的に取り組むことが重要です。また、気候変動による影響を最小限にとどめるために、今後数年間の取組みが特に重要です。今を生きる私たちは、恵み豊かな生態系サービスを持

続可能なものとして次世代に引き継いでいくために、一人ひとりが地球温暖化問題を自分事と捉え、具体的な行動に移していかなければなりません。

本計画では、将来、大阪市はどのような「まち」をめざすのか、様々な課題に直面している今の私たちの社会を大きく変えて、めざす「まち」を実現していくために何をしないといけないのかを整理し、提示します。

重要なのは、目の前に差し迫った地球温暖化の危機的な状況から目を背けず、正しく理解し、自分事として捉え、一生活者として、一事業者として、それぞれ何ができるかを考え、行動に移すことです。

将来あるべき「おおさか」のために、今、行動を始めましょう。